

2. 理念、目的等

1 岡山大学の理念 “高度な知の創成と的確な知の継承”

人類社会を安定的、持続的に進展させるためには、常に新たな知識基盤を構築していくかねばなりません。岡山大学は、公的な知の府として、高度な知の創成（研究）と的確な知の継承（教育と社会還元）を通じて人類社会の発展に貢献します。

2 岡山大学の目的 “人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築”

岡山大学は、「自然と人間の共生」に関わる、環境、エネルギー、食料、経済、保健、安全、教育等々の困難な諸課題に対し、既存の知的体系を発展させた新たな発想の展開により問題解決に当たるという、人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築を大学の目的とします。

このため、我が国有数の総合大学の特色を活かし、既存の学問領域を融合した総合大学院制を基盤にして、高度な研究とその研究成果に基づく充実した教育を実施します。

3 岡山大学の目標

岡山大学は、大学が要請される最重要的使命である教育活動を充実させます。

これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に“知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

4 岡山大学医学部ディプロマ・ポリシー

・人間性に富む豊かな教養【教養】

医療人、医学・保健学研究者として世界の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけ、病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴、共感できる。

・目的につながる専門性【専門性】

時代に応じた健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。

・効果的に活用できる情報力【情報力】

自ら健康、医療、医学・保健学に関する情報を収集・分析し、効果的に活用し、グローバル社会に向けて情報発信、情報共有ができる。

・時代と社会をリードする行動力【行動力】

医療人、医学・保健学研究者としてのコミュニケーション能力を有し、グローバルマインドを持って、多職種医療チームの一員として責任を持った行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。

・生涯に亘る自己実現力【自己実現力】

世界に通用する医療人、医学・保健学研究者として、絶えず医療の質の向上に努め、自立して生涯に亘り自己の成長を追求できる。

5 医学部保健学科ディプロマ・ポリシー

・人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】

世界で起こっている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として課題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。

・あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】

あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。

・健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】

住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。

・医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】

医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包摂性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。

・生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】

患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で調和を保ち、医療の発展に貢献できる。

6 医学部保健学科コンピテンシー

学士力	学習目標(学科DP)	学習成果(LOOs)	関連するコア・コンピテンシー
教養	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起こっている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として課題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	自然や社会の多様な問題に関心を持ち、探究心を高めることができる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
		問題解決に向けて論理的に考えることができる。	論理的思考力
		よりよい社会を創造することができる。	市民としての社会的責任
		倫理的な問題が生じていることに気づくことができる。	倫理観
		様々な状況の中で他者の意図や感情を理解することができる。	コミュニケーション・スキル
専門性	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	医療専門職としての専門知識を習得している。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解
		専門的な技術を習得している。	問題解決力
		習得した専門的な知識・技術を社会貢献のために活用することができる。	市民としての社会的責任
情報力	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	自らすんでもエビデンスに基づいた情報を収集することができる。	情報リテラシー
		収集した情報から数量的スキルなどを用いて的確に分析できる。	数量的スキル
		情報の収集と分析を適切に活用することができる。	論理的思考力
		情報の収集・分析・活用から積極的かつ効率的な情報発信ができる。	市民としての社会的責任
行動力	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包摂性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	他者と共生・協働するための言語的または非言語的な意思疎通ができる。	多文化・異文化に関する知識の理解
		自身の意見を持ち他者と議論できる。	コミュニケーション・スキル
		異文化を受容しつつ、多言語を習得することができる。	コミュニケーション・スキル
		時代と国際社会の中で、自分が果たすべき役割を説明することができる。	チームワーク・リーダーシップ
		自ら社会の中の課題を発見し、解決に向けて行動することができる。	問題解決力
自己実現力	生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で調和を保ち、医療の発展に貢献できる。	自立した個人として、心と体を健康に保つために適切な選択ができる。	自己管理力
		常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる。	生涯学習力
		自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画すことができる。	生涯学習力

7 医学部カリキュラム・ポリシー

医学部ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯にわたる自己実現力）を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、医学・保健学研究者を育成するため、教養教育科目と専門教育科目とで構成される体系的なカリキュラムを提供しています。教育課程全体を通した学修成果により、国家資格の受験資格を取得できます。学部カリキュラムは、大学院博士課程への進学や卒後研修に連動しており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成に取り組んでいます。

8 医学部保健学科カリキュラム・ポリシー

【教育課程の編成】

医学部保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻があり、授業科目は大きく教養教育科目と専門教育科目に分かれています。科目は、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーに掲げる学士力を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる人材を育成するため、体系的に学べるよう提供しています。また、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成を意識した学修方法・学習成果の評価に取り組んでいます。

【教育学修内容】

1年次には、外国語、リベラル・アーツなどの教養教育科目に加え、医療の基本となる各専攻に共通する知識や技術について学びます。また、これに加えてそれぞれ専門のイントロダクションを学びます。また、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習も必修科目となっています。

2年次からは、教養教育科目を学びながら、一方で「講義」や「演習」・「実験」などの専門教育科目をより多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識や技術を学びます。2年次からの「講義」「演習」・「実験」では、能動的学修が多く取り入れられ、課題探究型学習が増えています。

3年次からは、より専門性の高い専門教育科目を履修するとともに、多くの専攻で、本格的に附属病院等で臨地実習が開始されます。なお、2・3年次のいずれかで、4学期制を活用して留学・インターンシップなど長期間の学外活動にチャレンジできる機会も設けられています。

4年次には、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。さらに、開講される医療系学部共通科目においては、臨地実習とは視点の異なる医療の最前線や実際を学ぶ機会を提供し、専門性を高めます。4年生の後半には、それぞれの専攻が目指す国家資格（看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等）の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。大学教育としてのカリキュラムの成果は、国家試験の受験に十分に耐え得るものになっています。

【学修方法】

教養教育科目においては、幅広い分野から能動的に選んだ授業を通じ、学際的な基礎力を養います。専門教育科目では、主体的な学びとしてアクティブラーニングやグループワークを取り入

れた学修方法を実施しています。

【学習成果の評価】

講義・演習による学生の理解度は、筆記試験や実技試験・レポートによって評価します。実験および実習に関する評価は、レポート、態度などを総合的に評価しています。

「人間性に富む医療のための豊かな教養」を涵養するためには

- 自然や社会の多様な問題に対して関心を持つ態度を育成するために自然科学のみならず、豊富な社会科学・人文科学系の教養教育科目の中から多様な科目が受講できます。
- 論理的思考力・判断力・創造力を身につけるため、リベラル・アーツを重視するとともに、情報処理科目も全員が履修できますし、受講が奨励されています。
- 人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけるために、Humanities(人文科学)を重んじるとともに、専門課程において、医療者として相応しい人間性や倫理観を養うことができるような実習を行っています。

「あらゆる人々の健康推進のための専門性」を習得するためには

- 患者に限らず、あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるために、医学・保健学に共通する専門教育科目を、主として1・2年次に配当しています。
- 科学の進歩を健康に関わる技術開発や問題解決に活用し、社会に貢献できるようになるために、各専攻の学問分野（看護学、放射線医学、臨床検査医学）の最新成果を学べる専門教育科目を3・4年次に配当するとともに、卒業研究を行う中で、自らがこうした技術開発につながるような専門分野をさらに深めることができるカリキュラムとなっています。

「健康ニーズに応え、発信する情報力」を培うためには

- 住民や患者の健康ニーズに応えるとともに、自然や社会の情報を多角的に収集・分析する能力を身につけるために、1年次に保健科学入門と情報処理科目が準備されています。また保健統計について学ぶ機会も設けられています。
- 分析した成果を地域や世界に向かって情報発信する能力を培うために、その基礎となる外国語科目を学ぶとともに、IT技術、コンピューター・リテラシーが身につく教養教育科目が準備されています。

「医療・保健に関するリーダーとしての行動力」を身につけるためには

- 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力を身につけるために、ガイダンス科目「チーム医療演習」が1年次に配当されており、座学では得られないコミュニケーションの力を涵養します。
- 世界に貢献できる国際感覚や言語力を身につけるために、ネイティブに学べる外国語科目を1・2年次に履修します。また地域住民とのコミュニケーションを図る能力を養える実習科目も、一部専攻では準備されています。
- 個人として、また、チームとして時代と社会をリードする行動力を身につけるために、卒業研究に代表される多くの演習科目の中で、スマールグループのリーダーや各種役割を担う機会が設

けられています。

「生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力」を育成するために

- 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と文化やスポーツを享受する姿勢を持った医療人として、生涯に亘って学び、楽しみ、自己実現をはかるために、スポーツ実習が用意されています。
- 参加型の実習により、学生が目指す専門職(看護職、臨床検査技師、診療放射線技師等)に身近に接することで、そうした専門職業人が享受している文化やスポーツの一端をロールモデルとして体感でき、自らの生き方の指針とできます。

9 医学部アドミッション・ポリシー

【教育内容・特色】

医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています。

【求める人材】

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点に相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です。

保健学科

【教育内容・特色】

医学部保健学科には、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の3つの専攻がありますが、3専攻に共通して、ヘルスケアの専門家になるべく、医学を包含する保健学について、段階的・体系的・包括的に学び、持続可能な社会の実現に貢献できる人材を養成しています。そのことを通して、次のような能力の発展・向上を目指します。

- ・人間性に富む医療のための豊かな教養を身につける能力
- ・様々な健康状態にある人々の健康推進のための専門性を習得する能力
- ・健康ニーズに応え、効果的に活用できる情報を発信する能力
- ・医療・保健に関するリーダーとして行動できる能力
- ・健康的な生活を生涯にわたり自己実現する能力

医学部保健学科の教育内容には次の特色があります。

4年間かけて、医療従事者として最も重要な「チーム医療」の理念と実際を体得するための演習や、保健学に関する専門教育科目を多く履修し、各専攻の専門領域の基礎知識を学びます。

さらに、本格的に附属病院等で臨地実習を受け、実習と平行して、指導教員毎に研究室に配属され、ゼミナール形式で、研究の基礎を学ぶとともに、教員の指導の下に卒業論文を完成させます。

最終的には、それぞれの専攻が目指す国家資格（看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師等）の国家試験が行われ、基本的には全員が目指す職種の試験を受験することになります。

【求める人材】

本学での教育に必要な資質と基礎学力を有し、本学での主体的な学修を通じて持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を地域・世界と共に創する能力を身に付けることに強い意欲を持つ人、さらに以下のような人を、多様な入試方法により国内外から広く受け入れます。

- ・高い倫理観と豊かな人間性や感性をもつ人
- ・好奇心にとみ、自由な発想と知的探究心の強い人
- ・自らの課題に主体的に取り組み幅広く学ぶ意欲のある人
- ・他者への共感と洞察力を備え、細やかな心遣いのできる人

入学後の学修に向けて高等学校卒業レベルの総合的な基礎学力、論理的な思考力と分析力を養ってください。特に、生命や複雑な自然現象を理解するために、総合的な国語力、理科（物理、化学、生物）に関する基礎的な力を身につけてください。

【入学者選抜の基本方針】

・一般選抜(前期日程)

高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では数学・理科2科目（看護学専攻では理科1科目）及び外国語（英語）を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度と応用能力を評価します。

・一般選抜(後期日程)

高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。大学入学共通テストでは5教科7科目、個別学力検査では小論文と面接を課し、医療・保健に関する健康科学を学ぶ上で重要な、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。

・学校推薦型選抜 I (大学入学共通テストを課さないもの)

書類審査（調査書・推薦書・志望理由書等）・小論文・面接を課します。書類審査では専門領域についての関心と学習意欲を評価します。小論文では理系・文系に偏らない総合的な基礎学力を重視し、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では、大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力、理解度など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

・社会人選抜

書類審査（調査書・志望理由書等）・小論文・面接を課します。書類審査では専門領域につい

ての関心と学習意欲を評価します。小論文では理系・文系に偏らない総合的な基礎学力を重視し、論理的思考力、読解力、記述・表現力を評価します。面接では、大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力、理解度など、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

・ 私費外国人留学生選抜

日本留学試験を課し、基礎的な日本語能力を評価します。学力検査では数学・理科2科目（看護学専攻では理科1科目）及び外国語（英語）で日本人受験生と同一の試験を課し、基礎的知識、応用力、理解度を評価します。面接では大学で学ぶ目的意識と意欲、自己表現力やコミュニケーション能力など多面的な質問を行い、医療・保健の専門性を習得する上での適性を総合的に評価します。

・ 国際バカロレア選抜

書類審査により、成績評価証明書、自己推薦書、評価書を通して、基礎学力、自己表現力、意欲を評価します。また面接では、医療・保健に関する専門性を習得する上での適性を評価します。

学力の3要素対応表

入試区分	知能・技能		思考力・判断力・表現力等の能力		主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
一般選抜（前期日程）	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査（看護：外国語・理科、放射・検査：数学・外国語・理科）、面接	☆	調査書
一般選抜（後期日程）	◎	大学入学共通テスト	○	個別学力検査（小論文）、面接	☆	調査書
学校推薦型選抜	○	書類審査（調査書、推薦書、志望理由書、英語資格・検定試験成績（任意））	◎	小論文、面接（口述試験を含む）	○	調査書、志望理由書

（注）◎は特に重視する要素、○は重視する要素、☆は総合的な判断となる要素

各要素に対する資料は、「主とする資料」であり、それ以外の要素でも活用する場合がある。

10 大学院保健学研究科3つのポリシー

保健学研究科は、学修者を主体とする理想的な教育をめざして、2022年度より、新しい学位プログラムを開始しました。この学位プログラムには、多彩な学生がそれぞれ希望する専門性や専門資格の取得にきめ細かく対応した複数のサブプログラムとしてのコースを配置しています。

保健学研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、それぞれのコース毎に記載し、アドミッション・ポリシーは各コース共通の全体ポリシーのもと、入学前に修得していることが望ましい内容を、コース毎に記載しています。

【保健学研究科(博士前期課程 高度保健実践研究プログラム) ディプロマ・ポリシー】

[看護学研究コース]

高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、保健医療の世界やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる看護職者、研究者、教育者の育成を目指しています。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- ヘルスプロモーションの実践を目的とした健康課題の解決の方策を理解し、国際的な観点で保健活動を分析することができる。
- 学際的医療組織の中核として活躍するために必要な能力、専門性を身につけている。
- 保健・医療・福祉領域における研究者間の研究成果の共有、研究活動の効率的展開、社会に対する研究成果の発信・普及、研究成果を活用した健康・医療・福祉活動の実施等に向け、研究成果を国内外に向けて情報発信できる。
- 医療の高度化や医療提供体制の変化、社会・環境の変化を考慮に入れ、すべての人々が健康な生活を実現し、継続できるよう援助していくために必要とされる専門知識や技術について理解できる。
- 高度な看護専門知識と看護実践力を持ち、保健・医療・福祉の場および教育、実践、研究において指導者や教育者として活躍し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[助産学コース]

女性とその家族を取り巻く環境は多様化・複雑化し、助産師に求められる職責も変化しています。助産学コースでは生涯に渡って研鑽し、女性とその家族の福利および後進に貢献できる助産師を養成します。このサブプログラムでは、助産学に関する単位を修得し、学位論文が研究科の定めた水準を満たしていることに加え、次の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 助産を支える主要概念を理解し、長期的視座をもって国内外の助産特有の課題について考察できる。
- 助産の対象者に必要な幅広い専門知識を得て適切なケアが提供できる。

- 研究者の倫理に基づいて助産に貢献する研究を遂行できる。
- 保健・医療チームの一員である自覚をもち、助産師として他職種との協働を考察できる。
- 助産師のアイデンティティを構築し、生涯にわたって自己研鑽できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達することを目指します。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[放射線技術科学・高度実践研究コース]

高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、保健医療の世界やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる医療技術者、研究者、教育者の育成を目指しています。特別履修コースとして、平成20年度から、がん放射線科学コース(通称: 医学物理士コース)を開設し、放射線治療と診断領域の実地臨床において、専門資格(医学物理士、放射線治療専門技師など)をもつ高度専門職の育成、令和3年度からは、中性子医療コースを開設し、ホウ素中性子捕捉療法BNCTの実地診療に携わる高度専門職の育成を目指しています。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 放射線技術科学の専門的学識の実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。
- 保健・医療チームの中核を担い、放射線技術科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。
- 放射線技術科学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。
- 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 放射線技術科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達することを目指します。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。

- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

超音波検査の専門家としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、保健医療の世界やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる医療技術者、研究者、教育者の育成を目指しています。

岡大病院および連携病院と協力して実践的な超音波エコー研修を行い、超音波検査士の資格取得を目指すと同時に、エコー検査に関連する基礎研究や臨床研究の技術を習得することで、高度な研究力と臨床技能を併せ持った次世代の担い手となる検査技師を育成します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 超音波検査学の専門的学識の実践を通して医療の実践に貢献できる。
- 保健・医療チームの中核を担い、臨床検査科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。
- 臨床検査科学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。
- 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 臨床検査科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達することを目指します。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[ゲノム医療サイエンティスト育成コース]

ゲノム医療の専門家としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、医療や研究・教育の分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。

学位研究を行っていく過程で、核酸の保存や抽出方法、そして様々な遺伝子解析技術を取得します。さらに「遺伝子分析科学認定士（初級）」、「バイオインフォマティクス技術者」、「上級バイオ技術者」など関連する資格取得も目指します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たし

ていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 臨床検査科学の専門的学識の実践を通して医療の実践に貢献できる。
- 医療チームの中核を担い、臨床検査科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。
- ゲノム医療に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。
- 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 臨床検査科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[臨床検査科学・高度実践研究コース]

医学検査に関する領域について幅広い知識と高度な技術を修得し、その応用能力も有した人材を養成します。臨床検査科学の専門家としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想の上で真理を探求する能力を身につけ、医療や研究・教育の分野でリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指しています。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 臨床検査科学の専門的学識の実践を通して医療の実践に貢献できる。
- 保健・医療チームの中核を担い、臨床検査科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。
- 臨床検査科学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。
- 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。
- 臨床検査科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 保健医療分野において、専門性に基づいた的確な問題の解決に向けた適切な研究に取り組むことのできる能力およびその基盤となる知識を有している。
- (2) 学位請求論文は、科学的に信頼しうる結果に基づいて、明快な論旨とともに、論理的に書かれている。
- (3) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

【保健学研究科(博士前期課程 高度保健実践研究プログラム) コンピテンシー】

[看護学研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal1 看護学の専門的知識と実践を活用し、国際的な観点で保健活動を考へ、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる	ヘルスプロモーションの実践を目的とした健康課題の解決のための方策を探査し、国際的な観点で保健活動を分析することができる	LCO 1.1 ヘルスプロモーション実現のための戦略や行動変容に向けた活動について説明することができる LCO 1.2 海外の保健医療活動や課題を国内との相違を通して推測することができる	問題解決力 多文化・異文化に関する知識の理解	ヘルスプロモーション科学
Goal2 保健・医療チームの中核として看護師としての専門性を生かして全人のかつ先進的な保健・医療を提供できる	学際的医療組織の中核として活躍するために必要な能力、専門性を身につけることができる	LCO 2.1 看護の専門性や看護教育能力を高める理論・概念・最新の知見等について説明できる LCO 2.2 学際的医療組織において全人的かつ先進的な保健・医療を提供するために必要な看護師の役割について議論できる	問題解決力 倫理観	実践基礎看護学特論 小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ 成人看護学特論 地域公衆衛生看護学特論 老年看護学特論 精神看護学特論 看護倫理
Goal3 看護学領域における研究の基礎的能力と探究心を持ち、研究者・実践者として生涯に渡って自己研鑽できる	保健・医療・福祉領域における研究者間の研究成果の共有、研究活動の効率的展開、社会に対する研究成果の発信・普及、研究成果を活用した保健・医療・福祉活動の実施等に向けて、研究成果を国内外に向けて情報発信できる	LCO 3.1 実践・教育・管理など、直接・間接的に看護ケアに影響を与える事象について研究を実施するための知識を習得できる LCO 3.2 研究成果や、今後の研究課題について、国内外で情報発信できる	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 倫理的思考力	学位プログラム概論 研究方法論 看護研究 特別研究(基礎看護学・成育看護学・臨床応用看護学・コミュニティヘルス看護学)
Goal4 医療の高度化や医療提供体制の変化に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる	医療の高度化や医療提供体制の変化、社会・環境の変化を考慮に入れ、すべての人々が健康な生活を実現し、継続して行こができるよう援助していくために必要とされる専門知識や技術について理解できる	LCO 4.1 医療・教育・環境の変化について情報収集・分析を行い、それを適切に活用することができる LCO 4.2 持続可能性や医療・社会の利益追求を目指す本質的な変革を目指すリーダーとしての取り組みについて議論できる	情報リテラシー チームワーク・リーダーシップ	危機管理学 感染管理学特論
Goal5 高度な看護専門知識と看護実践力を持ち、保健・医療・福祉の場において指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる	高度な看護専門知識と看護実践力をもち、保健・医療・福祉の場において指導者や教育者として活躍し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる	LCO 5.1 保健・医療・福祉の向上に向け、高度専門職として変化する社会のニーズを多角的にとらえ、効果的なケイシスティムの構築について議論できる LCO 5.2 ケガの対象者の状態に合わせ差別的で、費用対効率のよい看護実践の創造や、新たなケアモデル、ガイドラインの開発について提案できる	論理的思考力 問題解決力	実践基礎看護学特論 小児看護学特論Ⅰ・Ⅱ 成人看護学特論 地域公衆衛生看護学特論 老年看護学特論 精神看護学特論 特別研究(基礎看護学・成育看護学・臨床応用看護学・コミュニティヘルス看護学) インターンシップ実践(前期)

[助産学コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal1 助産を支える主要概念を理解し、長期的視座をもって国内外の助産特有の課題について考察できる。	【教養】 命の尊重、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性の多様性、文化と宗教的・社会的背景と女性の性について理解。助産師として対象者の権利や利益について考察できる。	LOC1.1 助産を考える主要概念、関連するガイドラインの説明ができる。 LOC2.1 対象者の観察的・潜在的ニーズが理解できる	問題解決力 コミュニケーション・スキル	助産学特論、生殖病態学特論、医療倫理学 ヘルスプロモーション科学、看護理論 リプロダクティブ・ヘルス特論Ⅰ・Ⅱ リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
Goal2 助産の対象者に必要な幅広い専門知識を得て適切なケアが提供できる。	【専門性】 対象者中心のケアに必要な基本的な助産診断能力と特有の技術を習得できる。	LOC2.2 助産に必要な実践的能力を習得している。	論理的思考力	看護理論 助産学特論、助産診断・技術学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 助産学実習Ⅱ
Goal3 研究者の倫理に基づいて助産に貢献する研究を遂行できる。	【倫理性】 研究者の倫理の遵守し、適切な方法を用いて学術的・実践的貢献ができる。	LOC3.1 研究者の倫理に則り行動できる LOC3.2 ディスカッションを通じて実践的・学術的な問題意識を見出し研究が遂行できる LOC3.3 問題意識に合致する研究手法を習得している	倫理観 論理的思考力 数量的スキル	学位プログラム概論 研究方法論、プロジェクトマネジメント 女性の健康援助特論、女性の健康援助演習 成育看護学特別研究 グローバル・プレゼンテーション1 グローバル・プレゼンテーション2 研究方法論 女性の健康援助特論、女性の健康援助演習 成育看護学特別研究
Goal4 保健・医療チームの一員である自覚をもち、助産師として他職種との協働を考察できる。	【行動力】 助産師および他職種の職責、組織での役割を理解し、目的達成のための依頼について考察できる。	LOC4.1 常時・非常時の組織の目的を理解し、メンバーとしてチームへの貢献が考察できる LOC4.2 SDGsの達成への助産師の貢献が理解できる	チームワーク・リーダーシップ	看護理論 看護コミュニケーション論 助産看護学特論 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 危機看護学 感染看護学特論 リーダーシップとSDGs
Goal5 助産師のアインデンティティを構築し、生涯にわたって自己研鑽できる。	【自己実現力】 助産師の価値観、行動様式、役割意識を体得し、後進に伝える方法を考察できる。	LOC5.1 助産師の職業倫理に則った行動様式をとることができる LOC5.2 社会が求めめる助産の役割に基づいた後進の育成を考察できる。	倫理観 生涯学習力	助産学特論 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ 看護教育特論 助産学特論

[放射線技術科学・高度実践研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 放射線技術科学の専門的学識を通して、地域社会やヘルスプロモーションの実践に貢献できる。	【専門性と行動力】 放射線技術科学の専門的学識を用いて、地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。	LCO 1.1 国際社会におけるヘルスプロモーションについて説明できる。 LCO 1.2 地域社会におけるヘルスプロモーションについて説明でき、実践できる。	多文化・異文化に関する知識の理解 市民としての社会的責任	ヘルスプロモーション科学 専門科目
Goal 2 保健・医療チームの中核を担い、放射線技術科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。	【教養と行動力】 放射線技術科学の専門職として、チーム医療における役割を理解し、全人的かつ先進的な保健・医療が実践できる。	LCO 2.1 チーム医療において全人のかつ先進的な保健・医療とはなにか説明できる。 LCO 2.2 放射線技術科学におけるチーム医療での役割を説明できる。 LCO 2.3 チーム医療として、全人的かつ先進的な保健・医療を実施できる。	倫理観 チームワーク・リーダーシップ	学位プログラム概論 ヘルスプロモーション科学 リーダーシップとSDGs 専門科目、インターンシップ実践(前期) 学生科 がん放射線科学コース科目
Goal 3 放射線技術科学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。	【自己実現力】 研究方法についての知識と技術を習得している。課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。	LCO 3.1 研究方法を説明でき、実際の研究に応用できる。 LCO 3.2 研究者としても、生涯にわたって課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。	数量的スキル 生涯学習力	研究方法論、 専門科目、特別研究 学生科 がん放射線科学コース科目 中性子医療コース科目
Goal 4 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加え、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。	【情報力】 情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。自分や社会の未来創造のために、方向性を見いだし、計画できる。	LCO 4.1 情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。 LCO 4.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見いだし、計画できる。	情報リテラシー 自己管理力	研究方法論 専門科目、特別研究 学生科 がん放射線科学コース科目 中性子医療コース科目
Goal 5 放射線技術科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。	【専門性とリーダーシップ】 高度専門職としての知識を獲得し、それに裏付けられた技術を利用してできる。知識や技術について、他者へ明確に伝達できる。	LCO 5.1 高度専門職としての知識を説明でき、技術を利用できる。 LCO 5.2 獲得した知識や技術を、他者へ明確に伝達できる。	人・人間の文化、社会と自然に関する知識の理解 コミュニケーション・スキル	専門科目、特別研究 がん放射線科学コース科目 中性子医療コース科目 リーダーシップとSDGs 専門科目、特別研究 がん放射線科学コース科目

[超音波検査士育成コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 検査技術科学の専門的学識とその実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起こっている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として問題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 検査技術科学の専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。 LCO 1.2 地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションについて知識を習得している。	論理的思考力	専門科目、特別研究
Goal 2 保健・医療チームの中核を担い、検査技術科学を通して全人のかづな進の保健・医療を提供できる。	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	LCO 2.1 検査技術科学を背景としてチーム医療における活動について役割を見い出すことができる。 LCO 2.2 検査技術科学における全人のかづな進の保健・医療について知識を習得している。	チームワーク・リーダーシップ 問題解決力	リーダーシップとSDGs 医療倫理学
Goal 3 検査技術科学および超音波検査学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 研究方法についての知識を習得している。 LCO 3.2 課題を発見し、自ら解決方法を見い出すことができる。	論理的思考力 問題解決力	研究方法論 専門科目、特別研究
Goal 4 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 情報の収集・分析などをを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 4.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー 生涯学習力	研究方法論 専門科目
Goal 5 超音波検査学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。	生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で頑張りを保ち、医療の発展に貢献できる。	LCO 5.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 5.2 知識や技術について、他者へ明確に伝達することができる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 コミュニケーション・スキル	専門科目、特別研究

[ゲノム医療サイエンティスト育成コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 臨床検査科学の専門的学識とその実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起こっている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として問題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 臨床検査科学の専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。	論理的思考力	専門科目、特別研究
Goal 2 保健・医療チームの中核を担い、臨床検査科学を通して全人のかづな進の保健・医療を提供できる。	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	LCO 2.1 臨床検査科学を背景としてチーム医療における活動について役割を見い出すことができる。 LCO 2.2 臨床検査科学における全人のかづな進の保健・医療について知識を習得している。	チームワーク・リーダーシップ 問題解決力	リーダーシップとSDGs 医療倫理学
Goal 3 臨床検査科学に加え、がん、ゲノムに関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 研究方法についての知識を習得している。 LCO 3.2 課題を発見し、自ら解決方法を見い出すことができる。	論理的思考力 問題解決力	研究方法論 専門科目、特別研究
Goal 4 先進的な医療の変化や科学技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を有し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 情報の収集・分析などをを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 4.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー 生涯学習力	研究方法論 専門科目
Goal 5 がん、ゲノムの高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。	生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で頑張りを保ち、医療の発展に貢献できる。	LCO 5.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 5.2 知識や技術について、他者へ明確に伝達することができる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 コミュニケーション・スキル	専門科目、特別研究

[臨床検査科学・高度実践研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 検査技術科学の専門的学識とその実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起つている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として医療解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 検査技術科学の専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。 LCO 1.2 地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションについて知識を習得している。	論理的思考力	専門科目、特別研究
Goal 2 保健・医療チームの中核を担い、検査技術科学を通して全人的かつ先進的な保健・医療を提供できる。	あらゆる人々の健康推進のための専門性(専門性) あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健康に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会に貢献できる。	LCO 2.1 検査技術科学を背景としてチーム医療における活動について役割を説明することができる。 LCO 2.2 検査技術科学における全人のかつ先進的な保健・医療について知識を習得している。	チームワーク・リーダーシップ	リーダーシップとSDGs
Goal 3 検査技術科学に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生涯にわたって自己研鑽ができる。	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 基本的な研究方法を説明でき、実際の臨床検査科学の研究に応用できる。 LCO 3.2 問題提起を行い、解決策・仮説の提案と検証を実施することができる。	論理的思考力	研究方法論
Goal 4 先進的な医療の変化や医療技術の発展に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できる。	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療・チームのリーダーとして必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力と共に、信頼として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 4.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー	研究方法論
Goal 5 検査技術科学の高度な専門知識に裏付けられた技術を持ち、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。	生涯にわたる健康的な生活を続いている自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな個性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会のため貢献をめざす。	LCO 5.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 5.2 知識・技術について、他者へ明確に伝達することができる。	人間の文化、社会と自然に関する知識の理解	専門科目、特別研究
			コミュニケーション・スキル	専門科目、特別研究

【保健学研究科(博士前期課程) 高度保健実践研究プログラム) カリキュラム・ポリシー】

[看護学研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンディング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療・看護を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、医療施設や地域での実践体験により、現状認識に基づいた課題発見能力を高めるとともに、実践的な能力の養成および、各自の研究活動への展開の可能性について考察できる力を身につけます。また、キャリアオプションの拡大を図ります。
- (2) 初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の発展に貢献で

きる人材を養成します。

- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域における先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考力の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などを通して、これまでの研究の進捗状況を確かめ、今後の研究の最終的な方向付けや評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようになります。
- (4) 2年間の学習・研究成果を国内外で発表したり、海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に応じて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究プロセスのサポートを行います。

看護学の専門的知識と実践を通して国際的な観点で保健活動を考え、ヘルスプロモーションの実践に貢献できるための科目には、「ヘルスプロモーション科学」を配置しています。保健・医療チームの中核として看護の専門性を生かした全人的かつ先進的な保健・医療を提供できるための科目として、「専門科目」、「看護管理論」を配置しています。看護学領域における研究の基礎能力と探究心を持ち、生涯に渡って自己研鑽できるための科目には、「学位プログラム概論」、「研究方法論」、「看護研究」、「特別研究」、「専門科目」を配置しています。医療の高度化や医療提供体制の変化に加えて、社会・環境の変化にも柔軟に対応できるための科目として、「危機管理学」、「感染管理学特論」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。高度な看護専門知識と看護実践力を持ち、保健・医療・福祉の向上に貢献できるための科目として、「専門科目」、「特別研究」、「インターンシップ実践（前期）」を配置しています。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的に継続した改善を行っています。

[助産学コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

(1) 助産学

的確な助産診断に基づいたケア実践を展開するため「助産診断・技術学特論Ⅰ～Ⅲ」「周産期ハイリスク特論」「助産技術学演習」「助産学実習Ⅰ・Ⅱ」を配置しています。1年次は周産期に関する助産学実習は総合周産期母子医療センターや地域母子周産期医療センターで行い、1年次から2年次にかけて妊娠期から産褥期まで継続した母児とその家族のケア、地

域母子保健、助産管理に関する実習は県内の有床助産所で行います。また、あらゆるライフステージにある女性の健康に貢献できる実践的な知識やスキルを身に着けることを目的として「リプロダクティブ・ヘルス特論Ⅰ・Ⅱ」「リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰ～Ⅲ」を開講しています。さらに、近年増加している災害時の母子への支援を検討するため2年次に「助産管理学特論」を配置し、地域での防災や災害対策に関する実践を展開します。これらの科目履修を通じ、SDGsに掲げられた「3.すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」を学び実践できる人材を育成します。

(2) 研究

研究倫理や研究方法などの基盤となる科目修得の他、自身の学術的な問い合わせに基づいた研究を、女性の健康援助演習（1年次）と成育看護学特別研究（2年次）を履修し研究を行います。なお、研究倫理審査受審の前に中間報告会で自身の研究について報告し、研究倫理審査の承認を得なければなりません。また提出された修士論文は審査会を経て最終審査に合格する必要があります。グローバルプレゼンテーション1・2などを科目履修し得られた成果を学術集会での報告や学術誌に投稿する機会を提供します。

(3) 看護学

博士課程前期で、助産学の対象理解や研究活動につなげるため、看護理論や看護倫理、看護コンサルテーション論など、選択可能な多くの科目を通じ看護学の知見を深めます。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

[放射線技術科学・高度実践研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

(1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンディング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別

研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。
- (3) 特別履修コースにあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。
- (4) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようになります。
- (5) 2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。
- (6) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

放射線技術科学の専門的学識を用いて、地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献するための科目として、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップとSDGs」、「専門科目」、「インターンシップ実践(前期)」を配置しています。放射線技術科学の専門職として、チーム医療における役割を理解し、全人的かつ先進的な保健・医療を実践するための科目には、「学位プログラム概論」、「医療倫理学」、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップとSDGs」、「専門科目」、「インターンシップ実践(前期)」、「がん放射線科学コース科目」、「中性子医療コース科目」を配置しています。研究方法についての知識と技術を習得し、課題を発見して自ら解決方法を見いだすための科目として、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。情報の収集・分析などを行い、適切に活用し、自分や社会の未来創造のために、方向性を見いだし、計画してゆくための科目には、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。高度専門職として知識を獲得し、それに裏付けられた技術を利用でき、知識や技術について、他者へ明確に伝達できるようにするための科目には、「専門科目」、「特別研究」、「がん放射線科学コース科目」、「中性子医療コース科目」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD, 組織的な内部評価, 外部評価, 学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し, SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

本コースは5年一貫コースですが、博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンディング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。また「超音波画像計測学実習Ⅰ・Ⅱ」による実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。研究活動と並行して、超音波検査学を基礎から学びます。「超音波画像計測学特論」「超音波画像計測学演習」では、最新のガイドラインに沿った超音波検査の診断基準を習熟させます。さらに、岡大病院や連携病院での臨床研修（超音波画像計測学実習Ⅰ・Ⅱ）を通して、高度で実践的なエコー技能を習得できます。研究面では岡山大学病院循環器内科やエコーセンターとも連携し、幅広い臨床研究、基礎研究の技術を獲得します。
- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。
- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。
- (4) 2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導

体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

超音波検査学の専門的学識を用いて、地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献するための科目として、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップと SDGs」、「専門科目」を配置しています。臨床検査科学の専門職として、チーム医療における役割を理解し、全人的かつ先進的な保健・医療を実践するための科目には、「学位プログラム概論」、「医療倫理学」、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップと SDGs」、「専門科目」を配置しています。研究方法についての知識と技術を習得し、課題を発見して自ら解決方法を見いだすための科目として、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップと SDGs」を配置しています。情報の収集・分析などを行い、適切に活用し、自分や社会の未来創造のために、方向性を見いだし、計画してゆくための科目には、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップと SDGs」を配置しています。高度専門職として知識を獲得し、それに裏付けられた技術を利用でき、知識や技術について、他者へ明確に伝達できるようにするための科目には、「専門科目」、「特別研究」、「リーダーシップと SDGs」を配置しています。超音波検査学を習得する科目として、「超音波画像計測学特論」「超音波画像計測学演習」「超音波画像計測学実習 I・II」を配置しています。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

[ゲノム医療サイエンティスト育成コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップと SDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養

を育みます。また「分子細胞病理学実習Ⅰ・Ⅱ」の受講を必修とし、実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。
- (3) がんゲノム医療中核拠点病院である岡山大学病院の強みを活かして、ゲノム医療総合推進センターと連携して種々の教育プログラムを提供します。また、実際に岡山大学病院で行われているエキスパートパネルやキャンサーボードに参加し、実践現場を体験します。
- (4) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。
- (5) 2年間の研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。
- (6) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

[臨床検査科学・高度実践研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学び、「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシ

ップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。
- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。
- (4) 2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

臨床検査科学の専門的学識を用いて、地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献するための科目として、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップとSDGs」、「専門科目」、「インターンシップ実践(前期)」を配置しています。臨床検査科学の専門職として、チーム医療における役割を理解し、全人的かつ先進的な保健・医療を実践するための科目には、「学位プログラム概論」、「医療倫理学」、「ヘルスプロモーション科学」、「リーダーシップとSDGs」、「専門科目」、「インターンシップ実践(前期)」を配置しています。研究方法についての知識と技術を習得し、課題を発見して自ら解決方法を見いだすための科目として、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。情報の収集・分析などを行い、適切に活用し、自分や社会の未来創造のために、方向性を見いだし、計画してゆくための科目には、「研究方法論」、「専門科目」、「特別研究」、「学位プログラム概論」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。高度専門職として知識を獲得し、それに裏付けられた技術を利用でき、知識や技術について、他者へ明確に伝達できるようになるための科目には、「専門科目」、「特別研究」、「リーダーシップとSDGs」を配置しています。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的に継続した改善を行っています。

【保健学研究科(博士前期課程 高度保健実践研究プログラム) アドミッション・ポリシー】

求める人材

本研究科が教育研究を通して、人間と生命の尊厳を重視し人々が健康で充実した生活を送るための医療・保健・福祉を統合した健康の推進活動に参画できる人材育成を行う上で国内外から広く求める人物像は、以下の通りです。

- 保健・医療の基礎知識と豊かな人間性、優れた感性を持つ人
- 人々の幸福と健康の増進に貢献しようという情熱と気概がある人
- 協調性と柔軟な発想を持ち、将来、チーム医療の中核になれる人
- 保健・医療・福祉、および関連分野の高度の専門知識と技術の習得を目指す人
- 機器・技術・教育プログラムの開発に携わるため、研究の基礎能力の習得を目指す人

入学後の学修のため、特に以下の内容を修得していることが望まれます。

[看護学研究コース]

- ・看護・保健学とその関連分野で求められる科学的思考能力や専門領域の知識や技術
- ・グローバル化に対応できる英語力
- ・課題解決に必要な柔軟な発想と思考を備え、論理的に説明できる力

[助産学コース]

- ・看護学の基礎的知識と学力
- ・助産学に関する国内外の実践的・学術的な問題意識
- ・倫理的観点を持ち卒業論文相当の研究を遂行できる能力
- ・計画的に学習を積み上げられる資質

[放射線技術科学・高度実践研究コース]

- ・放射線技術科学とその関連分野で求められる科学的思考能力や研究推進能力
- ・グローバル化に対応できる英語力

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

- ・超音波エコー検査の臨床研修に参加するための基本的手技
- ・修学するために必要な基礎的英語力

[ゲノム医療サイエンティスト育成コース]

- ・遺伝子の基礎知識、腫瘍病理学および遺伝子解析に必要な基本的実験手技
- ・修学するために必要な基礎的英語力

[臨床検査科学・高度実践研究コース]

- ・臨床検査科学および保健・医療の分野で求められる科学的思考能力
- ・グローバル化に対応できる英語力

選抜の基本方針

・一般入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプランなどについて評価します。

・社会人入試

入学時に医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験を有する者を対象に、筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプランなどについて評価します。

・外国人留学生特別入試

日本の国籍を有しない者を対象に、口述試験を課し、受験時までに習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

【保健学研究科(博士後期課程 先端医療研究プログラム) ディプロマ・ポリシー】

[看護学高度研究コース]

保健・医療・福祉に携わる高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探究する能力を身に付け、国際的感覚を持ちつつ、地域医療等の領域やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる看護職者、研究者、教育者の育成を目指します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 看護・保健学領域の実践・教育・研究において指導的役割を担うための能力を身につけている。
- 看護・保健学領域における実践・研究で実証されたヘルスプロモーション推進に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の現状について理解し、保健・医療分野の多様化を重視した人材育成方針について検討できる。
- 自立した研究者として看護・保健・医療・福祉分野における課題を見出し、看護・保健・医療・福祉分野の発展に貢献できる。
- グローバル化に対応するためのスキルを身につけ、多様な視点で保健・医療・福祉の向上に向けた現状の分析ができる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、中間発表を行い、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確実の原著

論文である。

- (2) 掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3) 保健医療分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見いだし、的確なリサーチクエスチョンを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。
- (4) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[放射線技術科学・先端研究コース]

最先端の放射線診療に携わる高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、国際的感覚を持ちつつ、地域医療等の領域やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる医療技術者、研究者、教育者の育成を目指します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 放射線技術科学を背景とした保健学の実験・教育・研究において指導的役割が担える。
- 放射線技術科学を背景とした保健学の実践・教育・研究を通して、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。
- 独創的かつ自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、中間発表を行い、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確定の原著論文である。
- (2) 掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3) 保健医療分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見いだし、的確なリサーチクエスチョンを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。
- (4) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

超音波検査に携わる高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、国際的感覚を持ちつつ、地域

医療等の領域やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる医療技術者、研究者、教育者の育成を目指します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 超音波検査学を背景とした保健学の実験・教育・研究において指導的役割が担える。
- 超音波検査学を背景とした保健学の実践・教育・研究を通して、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。
- 独創的かつ自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、中間発表を行い、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確定の原著論文である。
- (2) 掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3) 超音波検査分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見いだし、的確なリサーチクエスチョンを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。
- (4) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[ゲノム医療・医科学研究コース]

博士前期課程で修得した技術や知識をさらに発展させ、最先端の医科学研究を実践し、high impact journalへの投稿を目指します。また、岡山大学で実際に行われている遺伝子診断業務に携わり、実務経験を積むことでキャリアアップを図ります。このように研究と実務を通して、国際的感覚を持つつ、研究と教育を両立できるサイエンティストを育成します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 医科学領域における実験・教育・研究において指導的役割が担える。
- ゲノム医療に関する実践・教育・研究を通して、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健医療教育の向上と保健医療分野の人材育成に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、中間発表を行い、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確実の原著論文である。
- (2) 掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3) 保健医療分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見いだし、的確なリサーチクエスチョンを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。
- (4) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる。

[臨床検査科学・先端研究コース]

最先端の臨床検査診療に携わる高度専門職としての知識と技術を修得し、それを総合的に応用できる能力や各個人が独創的な発想のもとで真理を探求する能力を身に付け、国際的感覚を持つつ、地域医療等の領域やチーム医療の中でリーダーシップを発揮できる医療技術者、研究者、教育者の育成を目指します。

このサブプログラムでは、論文にまとめた研究成果が研究科の定める学位授与の水準を満たしていることに加え、以下の要件を満たしている人に学位を授与します。

- 臨床検査科学を背景とした保健学の実験・教育・研究において指導的役割が担える。
- 臨床検査科学を背景とした保健学の実践・教育・研究を通して、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。
- 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。
- 独創的かつ自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。
- 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。

課程修了・学位授与の基準は、所定の年限在学し、研究指導を受け、中間発表を行い、所定の単位を修得し、本研究科が行う論文審査及び最終試験に合格することで、具体的には、以下のレベルに到達していることを目安とします。

- (1) 学位請求論文は客観的公正な査読が行われている学術雑誌に掲載あるいは掲載確実の原著論文である。
- (2) 掲載雑誌は、それぞれの専門分野において評価を受け、学術雑誌としての基準を満たしている。
- (3) 保健医療分野において、高い専門性に基づき、主体的に研究課題を見いだし、的確なリサーチクエスチョンを設定し、それを検証するに相応しい適切な研究手法のもとに、研究を遂行できる能力および学識を有している。

(4) 研究成果を明快に提示し、質疑に対して的確な対応ができる

【保健学研究科(博士後期課程 先端医療研究プログラム) コンピテンシー】

[看護学高度研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal1 看護・保健学を背景として看護・保健学領域の研究において指導的役割が担える	看護・保健学領域の実践・教育・研究において指導的役割を担うための能力を身につけることができる	LCO 1.1 看護・保健学領域における高度専門職として指導的役割を担うための能力について議論することができる	チームワーク・リーダーシップ	実践基礎看護学特講 成育看護学特講 成人看護科学特講 地域公衆衛看護学特講
		LCO 1.2 看護・保健学領域の実践・教育・研究について他者に明確に説明することができる	コミュニケーション・スキル	基礎看護学特別研究 成育看護学特別研究 臨床応用看護学特別研究 コミュニケーション・スキル看護学特別研究
Goal2 看護・保健学領域における実践・研究を通じてヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる	看護・保健学領域における実践・研究で実証されたヘルスプロモーション推進に貢献できる	LCO 2.1 看護・保健学領域におけるヘルスプロモーション推進の必要性について検討できる	論理的思考力	基礎看護学特別研究 成育看護学特別研究 臨床応用看護学特別研究 コミュニケーション・スキル看護学特別研究 実践科学統計学
		LCO 2.2 地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションの課題について議論できる	市民としての社会的責任	
Goal3 保健・医療・福祉教育の向上に向けた人材育成に貢献できる	保健・医療・福祉教育の現状について理解し、保健・医療分野の多様化を重視した人材育成方針について検討できる	LCO 3.1 保健・医療・福祉教育の現状について分析することができる	論理的思考力	インターフェッショナル・ワーク論 実践基礎看護学特講 成育看護学特講 成人看護科学特講 地域公衆衛看護学特講
		LCO 3.2 保健・医療分野の多様化を重視した人材育成方針について議論できる	問題解決力	
Goal4 自立した研究能力を持ち、看護・保健・医療・福祉等の向上に貢献できる	自立した研究者として看護・保健・医療・福祉分野における課題を見出し、看護・保健・医療・福祉分野の発展に貢献できる	LCO 4.1 自立して研究に取り組むことができる	論理的思考力	学位プログラム概論 看護学研究特論 基礎看護学特別研究 成育看護学特別研究 臨床応用看護学特別研究 コミュニケーション・スキル看護学特別研究 実践科学統計学
		LCO 4.2 看護・保健・医療・福祉等の向上に貢献するために、看護・保健学の発展に向けたケア技術開発の提案ができる	問題解決力	
Goal5 保健・医療・福祉領域の現状に即した多様な視点で、社会のグローバル化に迅速に対応できる	グローバル化に対応するためのスキルを身につけ、多様な視点で保健・医療・福祉の向上に向けた現状の分析ができる	LCO 5.1 多様な視点で保健・医療・福祉領域の現状について分析することができる	論理的思考力	インターフェッショナル・ワーク論
		LCO 5.2 社会の未来創造のために、グローバル化に対応するための具体的スキルを見出しができる	生涯学習力	国際研究インターナショナル・ワーク インターナショナル・ワーク(後期)

[放射線技術科学・先端研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 放射線技術科学を背景とした保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える。	【専門性ヒーラー・シップ】放射線技術科学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究において、それを作者へ明確に伝達し、指導できる。	LCO 1.1 高度専門職としての知識を説明でき、技術を利用できる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	専門科目、特別研究 インターンシップ実践(後期)
		LCO 1.2 知識や技術を、実験・教育・研究において、他者へ明確に伝達できる。	コミュニケーション・スキル	インターフェッショナル・ワーク論 専門科目、特別研究 インターンシップ実践(後期)
Goal 2 放射線技術科学を背景とした保健学の実践・教育・研究を通して、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる。	【自己実現力】医科学やヘルスプロモーションの実践・教育・研究を生涯にわたって実施できる。	LCO 2.1 放射線技術科学における医科学やヘルスプロモーションはなにか説明できる。	市民としての社会的責任	インターフェッショナル・ワーク論 専門科目、インターナショナル・ワーク(後期)
		LCO 2.2 放射線技術科学における医科学やヘルスプロモーションについての知識に基づき、課題を解決できる。	問題解決力	インターフェッショナル・ワーク論 専門科目、特別研究 インターナショナル・ワーク(後期)
		LCO 2.3 実践・教育・研究を生涯にわたって実施できる。	生涯学習力	学位プログラム概論
Goal 3 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。	【教養と行動力】放射線技術科学を背景としたチーム医療において役割を見いだし、それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。	LCO 3.1 放射線技術科学を背景とするチーム医療とはなにか説明できる。	倫理観	学位プログラム概論
		LCO 3.2 チーム医療における役割を見いだし、説明できる。	チームワーク・リーダーシップ	学位プログラム概論 インターフェッショナル・ワーク論 インターナショナル・ワーク(後期)
		LCO 3.3 医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できる。	論理的思考力	学位プログラム概論 インターフェッショナル・ワーク論 インターナショナル・ワーク(後期)
Goal 4 独創的かつ自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる。	【専門性と行動力】放射線技術科学の専門的知識と研究能力を持ち、保健・医療・福祉における課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。	LCO 4.1 放射線技術科学の研究方法を説明でき、研究に応用できる。	数量的スキル	専門科目、特別研究
		LCO 4.2 自ら課題を発見し、解決方法を見いだせる。	自己管理力	学位プログラム概論 インターフェッショナル・ワーク論 インターナショナル・ワーク(後期) 専門科目、特別研究
Goal 5 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。	【情報力】情報の収集・分析などをを行って、適切に活用して、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できる。	LCO 5.1 情報の収集・分析などをを行って、適切に活用できる。	情報リテラシー	専門科目、特別研究
		LCO 5.2 グローバル化など社会の変化を説明できる。	多文化・異文化に関する知識の理解	専門科目、特別研究

[超音波検査士育成コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 検査技術科学の専門的学識とその実践を通してヘルスプロモーションの実践に貢献できる。	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起つている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として問題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 検査技術科学の専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。 LCO 1.2 地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションについて知識を習得している。	論理的思考力 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	専門科目、特別研究 ヘルスプロモーション科学
	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健常に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	LCO 2.1 検査技術科学を背景としてチーム医療において役割を見い出すことができる。 LCO 2.2 検査技術科学における全人的かつ先進的な保健・医療について知識を習得している。	チームワーク・リーダーシップ 問題解決力	リーダーシップとSDGs 医療倫理学
Goal 3 検査技術科学における超音波検査に関する研究の基礎能力と探究心を持ち、研究者としても生徒にわたって自己研鑽ができる。	健康ニーズによる応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 研究方法について知識を習得している。 LCO 3.2 旗題を発見し、自ら解決方法に見い出すことができる。	論理的思考力 問題解決力	研究方法論 専門科目、特別研究
	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を育し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 情報の収集・分析などをを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 4.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー 生涯学習力	研究方法論 専門科目
Goal 5 超音波検査学の高度な専門知識に裏付けられた技術を扱い、指導者や教育者として保健・医療・福祉の向上に貢献できる。	生涯ニーズによる応え、発信する情報力【情報力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で貢献をめざす。 医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を育し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 5.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 5.2 知識や技術について、他者へ明確に伝達することができる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解 コミュニケーション・スキル	専門科目、特別研究 専門科目、特別研究

[ゲノム医療・医科学研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 臨床検査科学および医学を背景として保健学や医学の実践・教育・研究において指導的役割が担える	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起つている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として問題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 1.2 知識や技術について、他者へ明確に伝達することができる。	人類の文化、社会と自然に関する知識の理解	専門科目
	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健常に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	LCO 2.1 臨床検査科学および医学における活動について役割を見い出すことができる。 LCO 2.2 地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションについて知識を習得している。	問題解決力	専門科目
Goal 3 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 住民や患者の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 臨床検査科学および医学を背景としてチーム医療における活動について役割を見い出すことができる。 LCO 3.2 医療関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者との議論ができる。	チームワーク・リーダーシップ 論理的思考力	インテラクション・スキル 専門科目
	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を育し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 がん・ゲノムの専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。 LCO 4.2 旗題を発見し、自ら解決方法に見い出すことができる。	論理的思考力 問題解決力	専門科目 専門科目、特別研究
Goal 5 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に対応できる。	生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で貢献をめざす。 生涯ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 患者や住民の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 5.1 情報の収集・分析などをを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 5.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー 生涯学習力	専門科目 専門科目、特別研究

[臨床検査科学・先端研究コース]

ゴール (サブプログラムDP)	学習目標 (サブプログラムDPを項目に分けて記載したもの)	学習成果(LCOs)	関連するコア・コンピテンシー	主要な科目
Goal 1 検査技術科学を背景として保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える	人間性に富む医療のための豊かな教養【教養】 世界で起つている自然や社会の多様な問題に対して関心を持ち、信頼される医療人として問題解決に向けた論理的思考力・判断力・創造力、および、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かな教養を身につけている。	LCO 1.1 高度専門職としての知識に裏付けられた技術を習得している。 LCO 1.2 知識や技術について、他者へ明確に伝達することができる。	多文化・異文化に関する知識の理解	専門科目
	あらゆる人々の健康推進のための専門性【専門性】 あらゆる人々の健康的な生活を実現するための専門的学識を身につけるとともに、健常に関する技術開発や問題解決に科学の進歩を活用し、持続可能な社会の実現に貢献できる。	LCO 2.1 検査技術科学における全般的な知識を習得している。	問題解決力	専門科目
Goal 3 保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる。	健康ニーズに応え、発信する情報力【情報力】 患者や住民の健康ニーズに応えるために、自然や社会の情報を多角的に収集・分析するとともに、その成果を地域や世界に向かって情報発信できる。	LCO 3.1 医療・保健関係者それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者との議論ができる。 LCO 3.2 チーム医療活動において、検査技術科学を背景とした提案、並びにその評価をすることができる。	チームワーク・リーダーシップ 論理的思考力	インテラクション・スキル 専門科目
	医療・保健に関するリーダーとしての行動力【行動力】 医療チームの一員として必要なコミュニケーション能力、および、多様性や包括性のある地域社会や世界に貢献できる国際感覚や言語力を育し、個人として、また、チームとして時代と持続可能な社会をリードする行動ができる。	LCO 4.1 検査技術科学の専門的学識を持ち、それを実践に応用できる。 LCO 4.2 問題に関する複数の状況要因に対する解決策を計画・実施し、今後の必要性や改善策を提案することができる。	論理的思考力 問題解決力	専門科目 専門科目、特別研究
Goal 5 柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化など社会の変化に対応できる。	生涯にわたる健康的な生活を追い続ける自己実現力【自己実現力】 患者や住民から信頼を寄せられるような豊かな感性と、文化やスポーツを享受する姿勢を持つ医療人として、生涯に亘って学びつつ、社会の中で貢献をめざす。	LCO 5.1 情報の収集・分析などをを行うことができ、適切に活用することができる。 LCO 5.2 自分や社会の未来創造のために、方向性を見出し計画することができる。	情報リテラシー 生涯学習力	専門科目 専門科目、特別研究

【保健学研究科(博士後期課程 先端医療研究プログラム) カリキュラム・ポリシー】

[看護学高度研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インターープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、医療施設、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。
- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。
- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに使う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。
- (4) 3年間の学習・研究成果を国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や、海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に応じて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

看護・保健学を背景として看護・保健学領域の研究において指導的役割が担えるための科目として、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。看護・保健学領域における実践・研究を通しヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できるための科目として、「特別研究」、「実践科学統計学」を配置します。保健・医療・福祉教育の向上に向けた人材育成に貢献できるための

科目として、「インター・プロフェッショナル・ワーク論」、「専門科目」を配置しています。自立した研究能力を持ち、看護・保健・医療・福祉等の向上に貢献できるための科目として、「学位プログラム概論」、「看護学研究特講」、「特別研究」、「実践科学統計学」、「特別研究」を配置しています。保健・医療・福祉領域の現状に即した多様な視点で、社会のグローバル化に迅速に対応できるための科目として、

「インター・プロフェッショナル・ワーク論」、「国際研究インターンシップ」、「インターンシップ実践（後期）」を配置しています。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

[放射線技術科学・先端研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士後期課程の標準修業年限は 3 年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インター・プロフェッショナル・ワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践（後期）」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。
- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。
- (3) 1 年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3 年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成

も目指します。

- (4) 3 年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。
 - (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員 1 名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

放射線技術科学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究において、それを他者へ明確に伝達し、指導できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」、「インターンシップ実践(後期)」、「インタープロフェッショナルワーク論」を配置しています。医科学やヘルスプロモーションの実践・教育・研究を生涯にわたって実施できるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。放射線技術科学を背景としたチーム医療において役割を見いだし、それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できるようにするための科目として、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。放射線技術科学の専門的知識と研究能力を持ち、保健・医療・福祉における課題を発見し、自ら解決方法を見いだせるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。情報の収集・分析などを行なって、適切に活用して、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できるようになるための科目として、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

本コースは5年一貫コースですが、博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタープロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が

長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。また、博士後期課程の各学年でも臨床研修（超音波画像計測学実習 III・IV・V）を継続し、超音波検査士の資格取得に足る様々な症例経験を積む機会を提供します。

- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。
- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに進行する中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。
- (4) 3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインナーシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

臨床検査科学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究において、それを他者へ明確に伝達し、指導できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」、「インタープロフェッショナルワーク論」を配置しています。医科学やヘルスプロモーションの実践・教育・研究を生涯にわたって実施できるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。臨床検査科学を背景としたチーム医療において役割を見いだし、それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できるようにするための科目として、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」を配置しています。臨床検査科学の専門的知識と研究能力を持ち、保健・医療・福祉における課題を発見し、自ら解決方法を見いだせるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターパロフェッショナルワーク論」を配置しています。情報の収集・分析などを行なって、適切に活用して、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。超音波検査学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究において、それを他者へ明確に伝達し、指導できるようにするための科目として、各学年でも臨床研修（超音波画像計測学実習 III・IV・V）を継続し、超音波検

査士の資格取得に足る様々な症例経験を積む機会を提供します。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

[ゲノム医療・医科学研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インタークロスオーバーワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。
- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。
- (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに進行する中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。
- (4) 3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。
- (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

ゲノム医療・医科学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究

において、それを他者へ明確に伝達し、指導できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」、「インタープロフェッショナルワーク論」を配置しています。医科学やヘルスプロモーションの実践・教育・研究を生涯にわたって実施できるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。また、岡山大学病院ゲノム医療総合推進センターと連携して、遺伝子解析をもちいた臨床および基礎研究を行うとともに、岡山大学で行われている遺伝子診断にも携わって実務経験（臨床経験）を積むことができます。

チーム医療において役割を見いだし、それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できるようにするための科目として、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」を配置しています。ゲノム医療・医科学の専門的知識と研究能力を持ち、保健・医療・福祉における課題を発見し、自ら解決方法を見いだせるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターパロフェッショナルワーク論」を配置しています。情報の収集・分析などを行なって、適切に活用して、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、ゲノム医療・医科学分野の人材育成に貢献し、実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的に継続した改善を行っています。

[臨床検査科学・先端研究コース]

このコースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。

博士後期課程の標準修業年限は3年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、中間発表を実施し、学位論文の審査及び最終試験を行います。

- (1) 初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「インターパロフェッショナルワーク論」では、異分野の学生と支援教員が長期にわたり多職種連携を行い、地域の保健・医療、福祉の課題について相互にディベートし、複数の課題の探索とその解決をめざします。学生の多くは社会人で、教育施設や地域の病院に勤務する学生が多く、受講途中の複数回の評価と最終発表会に対する評価により、柔軟な発想と多角的視点を持ち、グローバル化等社会の変化に迅速に対応し、ヘルスプロモーションの実践と確立に貢献し、保健・医療・福祉教育の向上と保健・医療分野の人材育成に貢献できる人材を育成します。また在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(後期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

- (2) また初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等において、レポートや発表会等により評価し、高度な専門知識を習得させます。
 - (3) 1年次から教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、3年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともにを行う中間発表会での発表と質疑を必修とし、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。この過程を通して、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担える人材を養成します。また自立した研究能力を持ち、機器・技術の開発等を通して保健・医療・福祉に貢献できる人材の育成も目指します。
 - (4) 3年間の国内外での国際学会における英語での研究成果の発表や海外での研究活動やインターンシップを単位化して、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語論文の執筆を奨励し、英語能力、英語による知識習得や情報発信、国際的視野を育てます。
 - (5) 専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

臨床検査科学を背景とした高度専門職としての知識と技術を習得し、実験・教育・研究において、それを他者へ明確に伝達し、指導できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」、「インターンシップ実践(後期)」、「インタープロフェッショナルワーク論」を配置しています。医科学やヘルスプロモーションの実践・教育・研究を生涯にわたって実施できるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。臨床検査科学を背景としたチーム医療において役割を見いだし、それぞれの立場、知識、スキルを理解した上で、他者と議論できるようにするための科目として、「学位プログラム概論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。臨床検査科学の専門的知識と研究能力を持ち、保健・医療・福祉における課題を発見し、自ら解決方法を見いだせるようにするための科目には、「学位プログラム概論」、「専門科目」、「特別研究」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターパロフェッショナルワーク論」、「インターンシップ実践(後期)」を配置しています。情報の収集・分析などを行なって、適切に活用して、グローバル化など社会の変化に迅速に対応できるようにするための科目として、「専門科目」、「特別研究」を配置しています。

以上の教育プログラムによって、国際社会の中で柔軟な発想と多角的視点を持ち、その変化に迅速に対応し、保健・医療分野の人材育成に貢献し、保健学の実践・教育・研究において指導的役割が担いながら、医科学やヘルスプロモーションの実践と確立に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員 FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

保健学研究科(博士後期課程 先端医療研究プログラム) アドミッション・ポリシー】

求める人材

本研究科が教育研究を通して、実証に基づいた看護学・保健学の学問・研究基盤を確立するとともに、患者および家族のニーズをくみ取る感性、深い倫理観と総合的な判断力、そして高度な専門知識と実践力を備えた研究者・教育者の養成を行う上で国内外から広く求める人物像は、以下の通りです。

- 人間や物事の本質を見抜く感性を持つ人
- 多角的かつ包括的な視点と包容力を持ち、将来、医療・保健チームをリードする素質を持つ人
- 研究の基礎能力と真理への探究心を持ち、医科学やヘルスプロモーション科学の確立を進めていく可能性を持つ人
- 保健・医療・福祉分野の研究者・教育者を目指す人
- 将来保健・医療・福祉の領域で国際的な活動・貢献を目指す人

入学後の学習のため、特に以下の内容を修得していることが望されます。

[看護学高度研究コース]

- ・看護・保健学とその関連分野で求められる科学的思考能力
- ・プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力
- ・英語論文を執筆可能な英語力

[放射線技術科学・先端研究コース]

- ・放射線技術科学とその関連分野で求められる科学的思考能力
- ・論文執筆のための英語力

[超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)]

- ・超音波計測における基本的な知識・技術を有していること
- ・超音波計測の検査ルーチンをこなせること
- ・修学するために必要な基礎的英語力

[ゲノム医療・医科学研究コース]

- ・バイオインフォマティクスおよび遺伝子解析に関する知識
- ・修学するために必要な基礎的英語力
- ・遺伝子関連の認定資格を有していること

[臨床検査科学・先端研究コース]

- ・医科学領域で必要とされる科学的思考能力や論理的思考能力
- ・統計学についての知識
- ・医学英語論文の読解力および執筆力

選抜の基本方針

・一般入試

筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて評価します。

・社会人入試

入学時に医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等において3年以上の専門的な実務経験を有する者を対象に、筆記試験と口述試験を課しています。筆記試験では、保健医療学分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、表現力等を総合的に評価します。専門科目の口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプラン、英語力や論文執筆能力などについて評価します。

・外国人留学生特別入試

日本の国籍を有しない者を対象に、口述試験を課し、受験時までに習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

・進学者選考

岡山大学大学院修士課程又は博士前期課程を修了見込みの者を対象に、口述試験を課し、これまで行ってきた研究内容、キャリアプラン、専門的知識、英語力などを評価します。

・O-NECUS修了者特別入試

O-NECUS プログラム（岡山大学－中国東北部大学院留学生交流プログラム）修了者を対象に、O-NECUS プログラムの成績（学力・意思・意欲）、書類審査、面接などにより、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

【参考】

岡山大学管理学則

(大学の目的)

第10条 広く知識を受け深く専門の学芸を教授研究して、知的、道徳的及び応用的能力を展開させ、日本国家及び社会の有為な形成者を育成するとともに、学術の深奥を究めて、その成果を広く社会に提供することにより、世界文化の進展に寄与することを目的とする。

(大学院の目的)

第53条 岡山大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2 大学院のうち、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的としたものは、専門職大学院とする。